

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

栃木県大田原市

○学校名

大田原市立黒羽中学校

○学校のURL

なし

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】1 学年 3 学級、2 学年 4 学級、3 学年 4 学級、【特別支援学級】2 学級、【合計】13 学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】317 人（平成27年11月16日現在）
（内訳：1 年生 90 人、2 年生 114 人、3 年生 113 人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成26・27年度人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「自ら学ぶ生徒」「思いやりのある生徒」「健康でたくましい生徒」

【人権教育に関する目標】

一人一人の良さや違いを認め合い、自他を尊重する豊かな心情を育むとともに身近な人権課題に気づき、互いに高め合うことができる実践力を育てる。

○人権教育に係る取組一口メモ

思いや考えを適切かつ豊かに表現し、的確に理解することができるような、伝え合い活動の重視

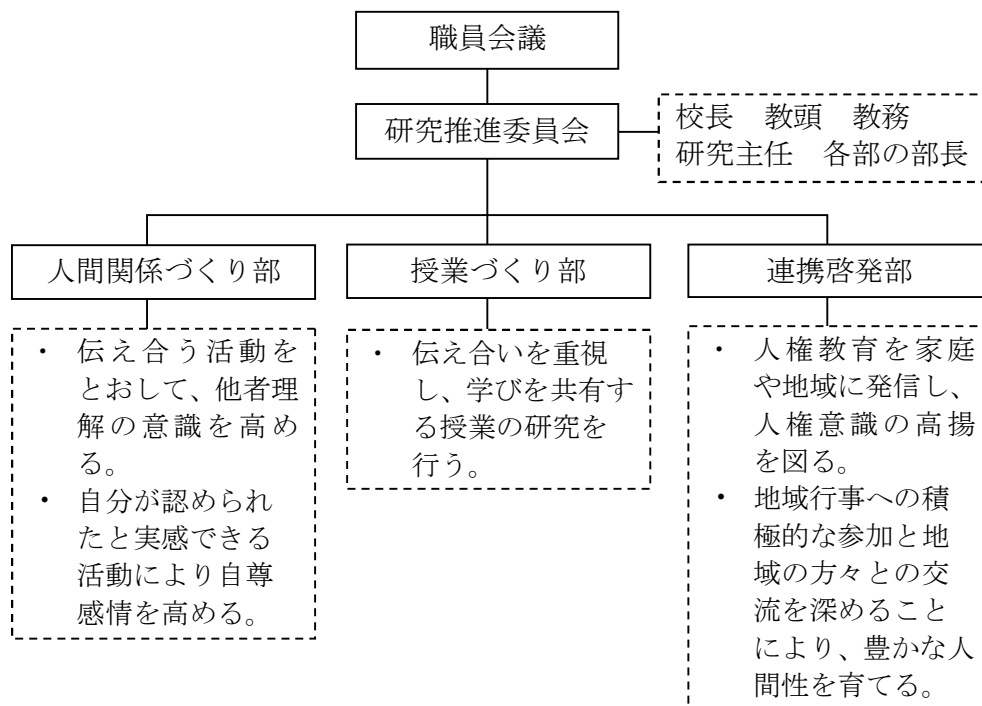
○人権教育にかかる取組の全体概要

（研究主題について）

本校では、人権教育の目標及び生徒の実態を踏まえ、自尊感情を高めることが最も重要な課題であると考えた。そこで、自分の思いを相手に伝え、相手の思いをしっかりと聴き、認め合う活動を重視することで、自分に自信をもって発言し、自分の良さに気づき、伸ばし、自尊感情を高められる生徒を育成することができると考え、研究主題を「学び合い、認め合い、高め合う生徒の育成」—思いや考えを伝え合う活動を重視して—と設定した。

（研究の内容）

研究推進に当たっては、学校長を中心に、人間関係づくり部、授業づくり部、連携啓発部の三つの専門部を設け、互いに連携、調整を図りながら組織的に推進していくこととした。



主な研究内容は以下のとおりである。

(1) 人間関係づくり部

緊密な人間関係を築くために、思いを伝え合う活動、相手に認められていると感じられる活動を実践した。

- ア 北山台タイム
- イ 全校集会でのスピーチ
- ウ 委員会や学校行事での話し合い活動の充実
- エ アサーショントレーニングの実施

(2) 授業づくり部

他者と交流し、自分の思いや考えを筋道を立てて話したり、話の趣旨を正しく聞いたりする活動などを通じて、学びを共有する授業の展開について研究を行った。

- ア 「話の仕方」の統一
- イ 人権一般や人権問題に関する内容を扱った授業の研究
- ウ 伝え合う活動を取り入れた授業の研究
- エ 本時の目標に迫るための学び合いについての研究

(3) 連携啓発部

人権意識の高揚を図るために保護者や地域に人権教育を発信した。また、地域を愛し地域から愛される生徒の育成を目指して、生徒が地域行事に積極的に参加したり、学校行事に地域の方々の協力を得たりして交流を図った。

- ア 人権だよりの発行
- イ 人権教育講演会及び保護者会での人権教育に関する講座の実施

ウ 地域の方々との交流

エ 人権に関するアンケート調査の実施

3. 特色ある実践事例の内容

◆ 自分の思いや考えを伝え合う活動（「北山台タイム」）の実施

（取組のねらい、目的）

ペアになり学級の全員と話をする機会をつくり、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聴いたりする活動をとおして、互いを理解し合い、だれとでも話のしやすい雰囲気づくりを目指した。

（取組を始めたきっかけ）

本校の生徒は、明るく素直で、何事にも真面目に取り組むことができる。また友達の考えに耳を傾け、素直に良さを賞賛することができる生徒が多い。しかし、自尊感情が低く、「自分のよさを言えない」、「自分の考えを自信をもって発表することが苦手」という生徒がかなりいる。そこで、多様な考えを、温かく受けとめる雰囲気をまず各学級でつくっていかうと考え、この取組を始めた。

（取組の内容）

（１）実施時間帯

朝の会

（２）実施時間

２分程度

（３）実施方法

２人１組となり、その日の「お題」について自分の思いや考えを相手に伝える。

（４）留意事項

- ・ 「お題」についてだれとでも気楽に話を

することが目的なので、身近で簡単な内容とする（「好きな動物」「夏休みの楽しみ」など）。

時々ニュースの話題を取り入れ、社会に目を向ける機会を設ける。

- ・ 話す相手（ペア）について

話す相手はペアー一覧表に従い毎日変える。

- ・ 話し方、聴き方について

話す側には、相手に伝わりやすい表現や表情、声の大きさを意識させる。

話を聴く側には、うなずくことや相づちをうつこと、相手の目を見ることを意識させる。



（取組の主体や実施体制）

ペアー一覧表や「お題」は人権教育研究推進組織の人間関係づくり部で作成し、学級での指導は各学級担任が行う。

(取組の頻度)

毎日、朝の会の時間に実施する。

(取組を実現するに当たって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫)

(1) 毎日朝の会で実施するため、できるだけ短時間でスムーズに行える活動にする必要がある。そこで、話す時間を1人1分に決め、全教室に設置したタイマーの合図で伝え合いが行えるようにした。

(2) 「お題」は、学級内の誰もが話せるものでなければならない。また、マンネリ化しないようにテーマを変えていく必要がある。そこで、人間関係づくり部では、学年の実態等を踏まえ、学校行事等と関連づけた「お題」を設定した。

北山台タイム お題一覧表				一部抜粋			
			1学年		2学年		
6月1日	月	1	部活動への意気込み	1	夏と冬、どちらが好き？	1	衣替え
6月2日	火	2	好きな食べ物は先に食べるか後に食べるか	2	もしも、タイムマシーンがつかえたら・・・	2	高校に行
6月3日	水	3	1日の中で楽しい時間	3	夏だなあと思う瞬間	3	私の尊
6月4日	木	4	会ってみたい有名人	4	部活で今、こんな練習をしています。	4	最近の
6月5日	金	5	ペアの人のよいところ	5	苦手な教科、どうやって勉強している？	5	興味の
6月6日	土						
6月7日	日						
6月8日	月	6	私のおすすめ勉強法	6	私の中間テスト学習法	6	梅雨の
6月9日	火	7	小学校で思い出に残っていること	7	寝る時間はいつ？	7	興味の
6月10日	水	8	ありがとうday～〇〇にありがとう	8	ありがとうday～〇〇にありがとう	8	ありがと
6月11日	木	9	中間テストへの意気込み	9	昨日何時間勉強した？	9	きのう免
6月12日	金	10	最近知った新事実	10	課題は先に終わらせる？ぎりぎりまでとっておく？	10	きのう免
6月13日	土						
6月14日	日						
6月15日	月	11	将来、どこに住みたい(国内、国外)？	11	私の母校(小学校)自慢	11	最近は一
6月16日	火	12	小学校、中学校で違うと思ったこと	12	男と女、生まれ変わるならどっち？	12	好きなま
6月17日	水	13	自分が落ち着く場所	13	思春期教室の感想	13	授業中
6月18日	木	14	気になるニュースの話題	14	好きなスポーツ	14	黒羽中
6月19日	金	15	言われてうれしい言葉	15	今週末の予定	15	給食の
6月20日	土						
6月21日	日						
6月22日	月	16	今日をどんな一日にしたい？	16	漢字テストに向けて頑張っていること	16	知ってい
6月23日	火	17	このクラスのよいところ	17	最近のマイブーム	17	今まで
6月24日	水	18	尊敬する人、すごいと思う人	18	最近気になったニュース	18	私が心
6月25日	木	19	好きな動物	19	ドラえもののポケットから出して欲しいもの	19	わたしの
6月26日	金	20	好きな言葉	20	浴衣を着てみて	20	いつか

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

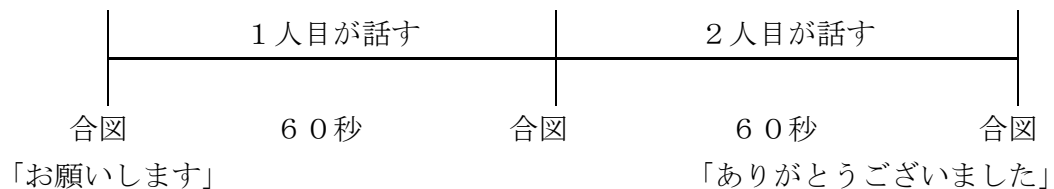
(取組を実施する際に生じた課題)

聴くときに、ただ単に相づちをうつだけの生徒がいたり、伝え合いの相手によって聴く態度が変わったりする生徒が出てきた。そこで、よりよい「聴き方」についての取組が必要だと考えた。

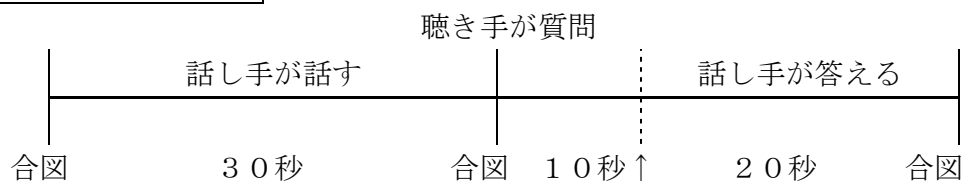
(課題に対する解決方法)

- (1) 相手の話を真剣に聴けるようにするため、1分ずつ話すのではなく、話し手がまず30秒間話し、次に聴き手が質問しそれに答えるという形式に変更した。質問するためには話の内容をよく聴かなければならないため、今までよりしっかり聴くことができるようになった。

1年目の取組



2年目の取組



ここでの合図はなくてもよい。

※これを2回行う。

質問が終わったらすぐに答える。

- (2) 学級活動の時間を使って、アサーショントレーニングを行い、相手を大切に、相手の話に注意深く耳を傾けることを意識した聴き方について練習した。聴き方が変わると、話し手も、自分の話を相手がきちんと受け止めてくれていると実感できることが確認できた。

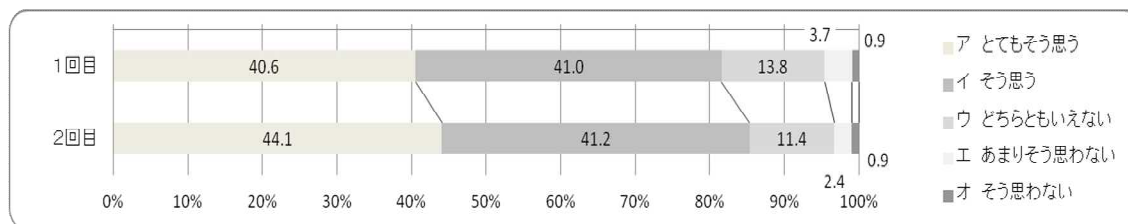
5. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績及び効果)

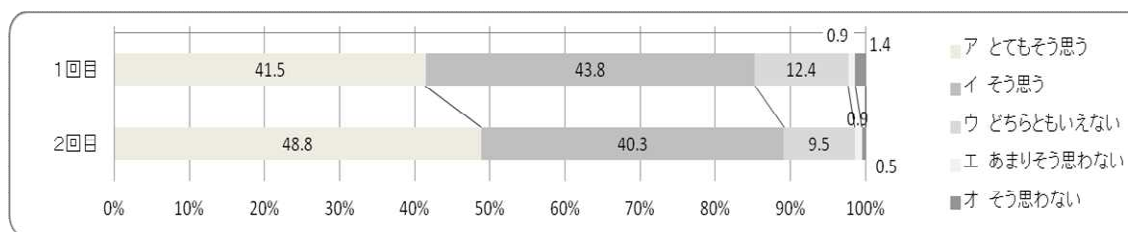
「北山台タイム」は平成26年度から実施している。この2年間、毎日朝の会で伝え合う活動を行った結果、お互いのよさを認め合い、学級内で良好な人間関係を築くために大変効果的な活動であるということがわかってきた。このことは、下のアンケート調査の結果からもうかがうことができる。

(アンケート調査の実施 1回目：平成26年10月 2回目：平成27年7月)

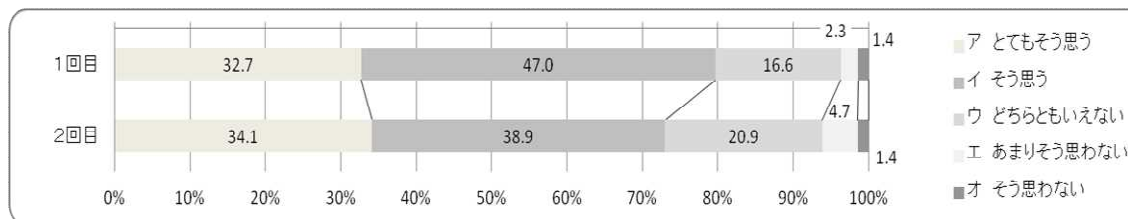
あなたは、学級内の友達の今まで知らなかった面を知ることができるようになったと思いますか。



あなたは、ひとそれぞれに、いろいろな考え方があるということを認めることができるようになりましたか



あなたは、お互いの人間関係が深まったと思いますか



アンケート調査の自由記述からも、「北山台タイム」の効果を読み取ることができる。

- ・ 人前で話をするときに、前を向いて、大きい声で話せるようになった。
- ・ 余り話したことのない人との共通点を見つけられて、仲良くなれた。
- ・ 自分の意見に自信をもてるようになった。
- ・ だれとでも話せるようになり、友達の今まで知らなかった面を知ることができた。
- ・ 話すことが楽しくなった。
- ・ 一人一人の個性がわかり、「北山台タイム」以外にもいろいろな話をするようになった。

- ・ 一つの話題から会話が広がっていくようになった。
- ・ 様々な視点で物事を考えるようになった。

(取組が効果を上げた実際の事例)

自分の思いや考えを伝え合う活動(「北山台タイム」)は、朝の会だけでなく、授業中、生徒会活動、学校行事など様々な場面で取り入れている。授業での学び合いがスムーズになる、生徒会活動が活性化する、全校生徒の関係が良好になるなど多くの効果を上げている。

(1) 朝の会

継続して実施してきたことで、本校教育活動の特色の一つとなった。相手のことを知り、相手のことを考える活動をとおして、望ましい人間関係を確立していこうという態度が身についてきた。

(2) 生徒集会

学年関係なくペアになる場面の一つである。それぞれが異なる意見をもっていることに気付く経験や、自分たちでルールを作る経験などを積み重ねていくなど、生徒の自主性を尊重した活動となった。

(3) 部活動

「お題」は様々だが、「今日の練習を振り返って」「個人の目標発表」などがある。生徒の部活動への意欲を高め、チームワークを深める効果があった。

(4) 授業

授業のねらいを意識した言語活動の一つとして、本校の多くの授業で活用されている。



道徳の導入場面で

(5) 学校行事

日々の「北山台タイム」の成果を確認する機会となった。活動の前後に北山台タイムがあるため、学校行事に臨む意欲が高まった。共通体験をとおして、達成感や充実感を共有することができるので、他者理解に効果的であった。



体育祭練習後の振り返り

6. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びそう評価する理由)

「北山台タイム」を実施するようになって、生徒に次のような変化が見られるようになった。

- ・ 自信をもって自分の意見を伝える生徒が増えてきた。
- ・ 伝え合いによってお互いのよさを認め合えるようになり、学級内の人間関係が良好になった。
- ・ 授業での学び合い活動が活発になった。
- ・ 行事や生徒会活動でも取り組んだことにより、他の学年とも交流が深まり全校生徒間の人間関係も良好になった。

以上のことから、「北山台タイム」は本校の人権教育推進に大きな効果があったと評価することができる。

(保護者や地域住民からの反応)

保護者会において、「北山台タイム（「お題」は、「子供の良いところ）」を実際に体験するワークショップを実施した。その際、次のような意見が出された。

- ・ 自分の考えが肯定的に認められることで、大切にされていると感じることができました。
- ・ 自分で考えていること、思っていること、相手に伝えたいことを要約して伝えることが苦手だった息子が、上手に話せるようになってきています。
「北山台タイム」の成果なのかと思います。
- ・ クラスの子どもたちが仲良くできているのは「北山台タイム」があるためなのかと思っています。
- ・ 以前より自分のことをよく話すようになりました。
- ・ 「北山台タイム」は、クラスの中で個人を認め合うよい取組だと思います。

(現在、実施に当たって課題と感じていること)

今回の伝え合う活動では、相手を大切にし、相手の話に耳を傾けることを聴き手に意識させたことによって自尊感情が高まり、自信をもって自分の考えを伝えることができるようになってきた。一対一の伝え合いでは、一定の成果を得ることができたといえる。今後は、グループの活動の中でも安心して意見を言い合える雰囲気づくりや、グループの構成メンバーを配慮した伝え合い、更にテーマそのものを自分たちで設定することができるような活動へ発展させていくことが課題であると考えている。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

大田原市立黒羽中学校

自分の思いや考えを伝え、相手の思いをしっかり聴き、認め合う活動を通して自尊感情を高めるため「人間関係づくり部」「授業づくり部」「連携啓発部」を設け、連携・調整を図りながら組織的に取り組んだ事例である。特に「人間関係づくり部」の活動である「北山台タイム」は年間通して全校で取り組まれ、お互いに認め合えるよう話しやすい雰囲気をつくる工夫もされている。取組の途中で見えてきた課題についても漸次あらたな対応がなされ、より充実した内容に発展させていった。「北山台タイム」の取組だけでなく、授業・生徒会活動・学校行事等の様々な場面にも取り入れたことは学校生活全般に影響を及ぼし、全生徒間の人間関係に変化が見られる。豊かな人間関係を構築することで自尊感情を高める取組としての発展が期待される取組である。